

川柳・標語の優秀作品

男女共同参画に関する川柳・標語を募集し、1,161点の応募をいただきました。

入賞作品

助けあう 重い荷物も はんぶんこ (志村空乃介さん)	男女共 自分らしさで 輝ける (岡嶋玲音さん)	土曜日は ぢいやの鍋で 靴あふれ (大森一男さん)
-------------------------------------	----------------------------------	------------------------------------

入選作品

洗たくは 俺にまかせろ 全自動 (堤玄五郎さん)
男でしょ いつもの言葉 差別です (秋山友汰さん)
ありのまま 自分らしさ 忘れずに (澤登瞳さん)
同じだよ あなたはあなた ぼくはぼく (上村亘杜さん)
パパとママ ふたりで育児 ぼくえがお (有泉圭悟さん)
未来へと 向かってなくそう 男女の差 (嶋津那奈さん)
認めあおう みんなの個性を 大切に (渡邊希佳さん)
かたよらず 男女のバランス よい社会 (神田琴璃さん)
ママねちゃう かわりにパパが あらいもの (阿部あかりさん)
おたがいを 認めてちぢまる 男女の差 (松野羽珠さん)

非常品持ち出しチェックシート

自分や家族の状況に合わせ必要なものを準備しましょう。
※目安：男性 15kg・女性 10kg

救急医薬品

- 常備薬 鎮痛剤
- 包帯 絆創膏
- 傷薬 胃薬
- 風邪薬
- 消毒液

貴重品

- 現金
- 通帳・印鑑
- 免許証
- 健康保険証
- キャッシュカード

懐中電灯

- 懐中電灯
- 電池

携帯ラジオ

- ラジオ
- 電池

非常食品等

- 非常用食料 缶詰 缶切り
- ミネラルウォーター 栓抜き 紙皿
- ビニール袋・ラップ 紙コップ
- はし・スプーン・フォーク

生活必需品

- 衣類(下着・上着) タオル
- 生理用品 紙おむつ
- 粉ミルク・ほ乳ビン 雨具
- ウエットティッシュ ライター
- ヘルメット
- 携帯電話の充電器

ひとひと 男と女のハーモニー

Harmony

南アルプスハーモニープラン推進だより 南アルプス市

2019 Vol.20

南アルプスハーモニープラン(男女共同参画基本計画)に基づき、地域・家庭・職場などあらゆる場面で男女共同参画を進めるため、市と市民が一緒になって取り組んでいます。



平成30年度 南アルプスハーモニープラン推進会議の テーマは **防災** でした

平成30年度活動報告

ハーモニープラン推進会議・・・男女共同参画の防災について必要なことってなんだろう？
市女性団体連絡協議会・・・行政・団体・人、つながることで活力あふれるまちづくり。
そして次へ！

男女共同参画啓発

非常品持ち出しチェックシート 自分や家族の状況に合わせ必要なものを準備しよう！
男女共同参画川柳・標語優秀作品発表

ハーモニープラン推進会議
家庭部会活動報告

家庭部会では「男女が共に自立して支え合う家庭づくり」を目指して活動しています。その中で男女共同参画の視点で「防災」について考えたとき、多様な家庭の中で支え合うためには女性の目線が必要であることに気付き「家庭でできる防災～女性の目線で防災を考える～」をテーマに、推進活動を行ってきました。

【女性目線の意見が大切だと感じた講演会】

6月7日 全国災害ボランティア議員連盟事務局長の細川かをり氏をお招きし、講演会を行いました。「女性目線の避難所運営と健康づくり」と題された講演では、実際の避難者が抱えた問題を踏まえ、秩序ある共同生活に必要なことをお話しいただきました。この講演を通して女性の意見が避難所運営に如何に重要なことか多くの方に考えていただくきっかけとなりました。



【女性目線から見た「地域の防災」勉強会】

9月26日 防災士の櫻田力氏をお招きし、豊地区自治会長の方々と一緒に「地域の防災」の勉強会を行いました。私たちが住んでいる地域の特性をあらためて認識するとともに「普段から災害に対して準備する必要性」「隣近所と関わることの大切さ」「防災に対する意識を高めること」が大切だと感じました。



【伝えたいこと】

現在、男女共同参画の視点の「防災」は、女性が声を上げる機会が少ない、もしくは声を上げる人材が少ないなどの問題が考えられます。「家庭」は男女や子供、高齢者などの共同体であるため、もっとも「女性の意見」が反映しやすい場です。男性だから、女性だからではなく、自分たちの身は自分たちで守ることを意識し、家族全員で支え合ひましょう。

ハーモニープラン推進会議
地域社会部会活動報告

地域社会部会は、「自治会組織等において制度や慣習を見直して男女の意見が平等に反映されるような地域」を目指した活動を行っています。平成30年度は「防災」について男女にまつわる様々な問題の現状を伝え、改善していく体制づくりを目指して推進活動を行ってきました。

【今年度の活動方針】

「避難所はすべてが共同生活」をテーマに、男性や女性、子供からお年寄りと様々な立場で自分の役割を考えてもらえるような啓発ポスターを作成しました。ポスターは市内の金融機関・スーパーなどたくさんのお店や施設で掲示してもらいました。



【HUG(避難所運営ゲーム)体験】

日本赤十字社救急法指導員 赤十字防災ボランティア・リーダーの鈴木清氏をお招きし、避難所運営を任せられたという想定のもと、次々と出される要望や状況を迅速かつ適切に対処するゲームを行いました。「よくわからない、たくさんの人や問題があって難しい」「通常の判断が出来ない」「地域住民一人ひとりが考える必要がある」という意見がありました。



【伝えたいこと】

避難所生活は「すべてが共同生活」であり、様々な問題が発生します。中でもプライベートスペース不足や性暴力の被害など深刻な問題も数多くあります。こうした問題の解決には「女性の視点」が不可欠です。私たちは避難所運営に「女性の視点」を入れるため、地域の防災力強化の核となる女性の「防災リーダー」育成強化が有効であると考えます。今後、南アルプス市に女性の「防災リーダー」を増やして男女の意見が平等に反映されるような地域にしましょう。

ハーモニープラン推進会議
職場部会活動報告

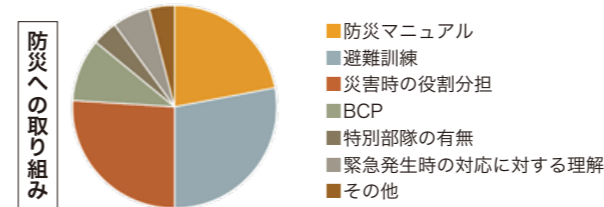
職場部会では、「男女が平等に働ける職場作り」を目指し、企業での男女平等や労働環境の整備、意識向上の啓発に取り組んでいます。

【主な活動】

「防災」について市内で活躍する企業さんの現状を皆さんと共有すべく、企業訪問や、アンケート・インタビューを行いました。また私たちの活動を通して企業さんに少しでもハーモニーの意識を共有するため推進活動に取り組んできました。

【地域企業の防災対策について調べよう！】

昨年度、南アルプス市企業ガイダンスにて、数社へ聞き取り調査・アンケートを実施し、その結果を集計しました。



その結果から今年度は、市内の企業の防災対策で災害時の備えや男女における差・役割分担の有無など、実際に取り組まれていることを把握するために以下の4社へ訪問・調査をしました。

- ちぼりキネヤ(株)様
- 医療法人社団高原会様
- ヤマト科学様
- JA南アルプス市様



【4社における共通点】

- ①防災訓練などの活動への取り組み
- ②災害が発生した場合の初期の備え

【企業訪問を通して感じたこと】

- ・男女別のスペースの利用方法や過ごし方等は無意識の中で浸透。
- ・災害が起こる前の対策(防災)に力を入れている。
- ・職場によって対外的な考え方と対内的な考え方(対策)で偏りがある。
- ・災害時は、主体的に動くのではなく保守的であると感じた。
- ・二次災害(提供したものによる体調不良や体調の悪化等)を配慮しなければならない。

【つなげていくために…】

地域の会社はハーモニーの意識をもって、更に地域のために働き、支えてくれています。こうして私たちの地域は多くの企業さんにも支えられ、共存していると感じました。これからも企業と地域でハーモニーの意識を共有しながら共存していければと思います。

南アルプス市
女性団体連絡協議会活動報告

平成30年度から、これまで4地区で組織されていた本会が、檜形地区の休会により八田・白根・若草の3地区で活動を行ってきました。女性の声を行政へと各種委員として参加したり、事業への協力などをしてきました。まさしく人と人が、団体と地域とが、または団体同士とがつながり、女性の声が地域に響く事で元気になる事を感じています。

●総会・記念事業

5月22日/会場：防災交流センター

記念事業では、市内の女性の活動にスポットをあて、五十嵐有子氏をお招きし、講演「生きる」とパルフェの2人のコンサートを行いました。

●一日研修会

9月7日/会場：市川房江記念会女性と政治センター

二年に一度の県外研修では、会員同士の交流を深めると同時に、女性の政治への関わり方の歴史と政策決定の場に女性がいるということの大事さを学びました。車内では、西日本豪雨災害被災地へボランティアとして参加した方からの体験報告と防災に対する備えなど実践している方から話をいただきました。



●市長との懇談会

11月1日/会場：市民活動センター

市長との懇談会は、役員が出席し市政を学び自分たちの活動を通じた意見交換を行いました。

●半日研修会

11月28日/会場：若草生涯学習センター

西日本豪雨災害被災地へボランティアとして参加した市社会福祉協議会の小野康樹氏をお招きし、講演「自分の身は自分で守る～西日本豪雨災害の体験談から学ぶ～」を行いました。自分の身は自分で守る事の必要性和、隣近所の付き合いが希薄になっているお話を聞き、各団体とも今後の活動への糸口をつかんだ思いでした。

【今後へ向けて】

男女共同参画都市宣言の市として、私たち女連協は自分たちの活動を行いながら、行政とどのようにかわり、何を行うことで次へつなげることができるかという大きな課題があります。これまで以上に女性団体の活動や情報を共有しながら仲間づくり、地域づくりに貢献していきたいと思ひます。